

## うめっこ育て隊日記 ⑥3 平成30年12月3日(月)

今日は東保育園でごっこ遊び用のおもちゃの引き渡しがありました。スカート12枚、布団2組の他おんぶ紐などを作っていただきました。残念ながらYさんはお仕事の都合で欠席されましたが、Tさん、Nさん、Aさんから子どもたちに手渡されました。今年の夏から秋にかけて仕事の合間を見つけては子どもたちのために作ってくださったおもちゃ。引き渡しのと、年中さん59名がお礼にマツケンサンバに合わせたダンスを披露。その後、子どもたちが包丁で切って作ったという大根汁がごちそうされました。

スカートにフランス刺繍を施したTさんからは「小さいうちから本物に触れさせることが大事。子どもは国の宝ですから、先生も頑張ってください」、NさんAさんからも「みんな本当にかわいい」「先生方もご苦労様です」の言葉がありました。かわいいおもちゃを見たこうめ保育園長からは、「ぜひこうめ保育園にも」とお願いがありました。



# うめっこ育て隊日記 ⑥4 平成30年12月4日(火)



今日は1年2組の工作の時間。Hさん、Tさん、Hさんの3人の方に、折り紙を教えてくださいました。

クリスマスにちなんで、もみの木とベル、サンタ、フーツのオーナメントを折り紙で作り、もみの木に見立てた三角錐に張り付けクリスマスツリーが完成。

子どもたちに分かりやすいようにと、折り方の大きな見本を準備してくださっていました。

子どもたちはみんな一生懸命取り組んで、分からないところがあると、「せんせー」の声。3人の皆さんは子どもたちの間を動き回り、一人ひとりに笑顔で丁寧に教えていました。

みんな自分だけのクリスマスツリーができて良かったね。



# うめっこ育て隊日記 ⑥5 平成30年12月4日(火)

国語の時間に教科書で点字について学んだ4年生。実際の点字ってどういうものなのか、どんな風に使われているのか、実際に使っている人のお話が聞けないかと学校から要請がありました。それなら村で鍼灸院を営むNさんにとお願いしたところ、快く引き受けてくださり、梅の子ホールでお話をしてくださいました。

Nさんは19歳の時、友人の運転する車で事故に遭い、両目を失明。「家族と友の支えのおかげで落ち込むこともなかった。みんなも友達を大切にしてほしい。目の代わりに手、耳、鼻、口を使う。食事のときは時計の針の位置でイメージする。初めて行くところは教えてもらい、帰りは自力で帰る。料理、洗濯、掃除も習い、現在はてんぶら以外なら何でもできる。鍼灸マッサージを習い、皆さんの痛いところを治療している。運動不足の解消のため運動を始め、20年前の長野マラソンでは組織に交渉して出場。13年目に視覚障がい者の部を作ってもらい、今、20年連続出場を成し遂げた。いろいろやっているが、すべて自分だけではできない。みんなも大きくなったら助けてほしい。」と子どもたちにとっては初めて聞く話ばかりでみんな真剣に聞き入っていました。

お礼にみんなで作ったカヌエのスイーツを召し上がっていただき、「とてもおいしいよ」と言われて子どもたちもニコリ。障がいを持つ人の気持ちを感じとれる時間だったね。



# うめっこ育て隊日記 ⑥⑥ 平成30年12月6日(木)

今朝は3年生と4年生の読み聞かせの日。読み聞かせ終了後は別室で休憩していただきました。

お茶を飲みながら、読み聞かせの基本、本の読み方、選び方等々について話が盛り上がります。5年ぶりくらいに読み聞かせを再開したというAさんは、久しぶりでとても緊張したとか。おはなし宅Q便で始めた20年近く前は選書リストもなく、統制がとれていなかったが、今はきちんと管理されていてやりやすいなどなど、いろいろな話で盛り上がりました。

最後には、「情報交換ができて良かった」とか、「こんな時間が必要よね」の言葉を聞くことができました。

今後もたくさん、情報交換してくださいね。



うめっこ育て隊日記 ⑥7 平成30年12月6日(木)



今年もあと1か月を切りました。1年生のみんなはMMCさんにクリスマスバージョンで音楽を教えていただきました。

ハンドベルのきれいな音色の演奏を聞いた後、1年生も演奏を体験。タイミングを合わせるのは至難の業でした。トナカイになった先生たちもクリスマスソングに合わせて、カッコよく決めポーズ。リトミックの場面ではみんなで体を動かし、音楽に合わせて一緒に走り回りました。



# うめっこ育て隊日記 ⑥8 平成30年12月7日(金) 10日(月)

Kさんは流ちょうな江戸っ子口調で落語の「芝浜」を披露。最後はほろっとしました



中学校から「中学生にもぜひ読み聞かせを」と要望があり、手始めに12月の読書旬間に実施することになって、「はなし宅Q便」、「まほうのくれよん」のみなさんとOさんが引き受けてくださいました。

始まる前は「どんな本が良いのかしら」とか「小学生みたいにきちんと聞いてくれるかしら」と不安の声も聞かれましたが、終わってみると、「みんな真剣に聞いてくれてうれしかった」とほっとした様子。でも、小学校と違いみんなが真黒な学生服で、威圧感を感じたとか。確かに体も大きいし、声変わりもしているし・・・。

でも、始まる時間前に、教室までエスコートしてくれたり、一生懸命聞いてくれたり、心はいまも純粋なままの生徒達でした。



「からすたろう」を読んだHさんとAさん。生徒が立って挨拶すると、すっかり隠れてしまいました



# うめっこ育て隊日記 ⑥9 平成30年12月12日(水) 14日(金)



今回、中学校の読み聞かせで驚いたのが、Kさんの教室。手作りの資料で西遊記の解説をしてくださいました。僧侶でいらっしゃるKさんは、実際に行ったインドでの話も交え、歴史の面白さを生徒たちに伝えてくださいました。

読み聞かせが終わって皆さんに感想を聞くと、「緊張したが、自分自身も勉強になった」「生徒の様子クラスによって違った」「命の話をしたら生徒たちがしんみりしていた」などの声がかけられました。

学校の司書さんは、「これからは男性の読み聞かせも増えてほしい。今日のお話を聞いて、歴史の勉強、政治の勉強に興味を持つ子が増えるかもしれませんね」と今回の取り組みに満足された様子でした。



# うめっこ育て隊日記 ⑦〇 平成30年12月18日(火)

4年2組では夏から宮田村の歴史について学んでいます。もともとは、児童の「校歌に～梅の里宮田の村は～とあるのはどうして？」との疑問から、村の歴史も学ぶことになりました。

その中で村に伝わる民話も知りたいという声に、普段から朝の読み聞かせをしてくださっている0さんが応えてくださいました。

普段から民話にも造詣を深めている0さんは、図書館などで関係する文献を集め、子どもたちに合う民話「天つ速駒」、「観音坊の尼僧」、「帰命山の石地藏」、「にげたアメウオ」「河童のくれた妙薬」の5つを選んでくださいました。

「天つ速駒」では日本地図を広げながら、「帰命山の石地藏」では現在の石地藏の写真を子どもたちに示しながら、丁寧に話してくださいました。

終了後、0さんは、「子どもたちが一生懸命聞いてくれてよかった。村の事をみんな意外と知らないなので、これをきっかけに村の事を知ってくれば。こんな私にも役に立つことができてうれしかったです」とにっこり。

子どもたちのために準備にもずいぶん時間をかけてくださって、本当にありがとうございました。





# うめっこ育て隊日記 ㊦ 平成30年12月19日(水)

いつもは子どもたちに教える立場の先生も今日は生徒役。一言も聞き漏らすまいと真剣に聞いています。



学校のすべての子どもたちが帰り静まりかえったうめの子ホールに、5年生の先生方が集まりました。

子どもたちが作った稲わらを使って「おやす」を作りたいので講師をお願いしたいと先生から要請があり、大久保のHさんに依頼したところ、快く引き受けてくださいました。

ただ、子どもたちが作ったもち米のワラでは固くておやす作りに向いてないことから、Hさんが何か月も前から用意し管理していた自分の田んぼの稲ワラで対応してくださいました。指導するのも講師一人では難しいからと、担任の先生に伝授するため、事前に先生のための講習会が開かれたというわけです。あまりの準備の良さに感心していると、「ワラをそろえるのが大変。準備が90%で成功のカギを握る。それは何ごとと同じだよ」と深〜い話をしてくださいました。

先生たちも頑張った甲斐あって、何とか子どもたちに教えられそうです。



きれいに目がそろったHさんのおやす。見事です。



# うめっこ育て隊日記 ⑦② 平成30年12月20日(木)



今日は2年生と5年生などの教室で読み聞かせ。Sさんは、Kさんが中学校の読み聞かせで落語を読んだことに触発され、落語を披露。新しいジャンルに挑戦です。

今年の前半、ケガで読み聞かせに参加できず、久しぶりに登場したHさん。ケガの理由を聞くと、「庭先でスケボーしていて、孫にカッコイイところを見せようと飛び降りた途端、下駄をはいていたため転んで左手を骨折。千タンの糸を抜いてようやく復帰できました。車の運転ができず、どこにも出られなくて苦労したの」と大笑い。

Kさんからは「今年はCSでお茶を入れてくれるのでうれしい。」とありがたいお言葉をいただきました。

読み聞かせ終了後、話に花が咲きます



# うめっこ育て隊日記 ⑦3 平成30年12月20日(木)、21日(金)

まずはおやすの意味と飾り方から説明



おやす作りの第一歩



一人ひとり丁寧に手ほどきします



「おやすは正月3が日、正月神様がくるあらゆるところに食べ物をお供えするための食器で、上伊那特有のもの。昔はどこの家も本物の米や餅、食べ物などを入れていたが、今は縁起物の稲穂、松、南天を飾る。米ができるまで時間と苦労がかかる。昔の人は米だけでなくワラも大事にしてきたよ。」と子どもたちに話すHさん。30本のワラを1束にして、1人2束ずつ、稲穂、松、南天も2セットずつ、184人以上をすべてHさんが用意してくださいました。ワラもコンバインで刈られ刻まれるところを交渉して手で刈り取り、苦労して準備してくださっています。

終了后感想を聞くと「子どもたちは一生懸命やってくれた。今は高齢者もおやすを作れない人が多くなっている。ワラや正月の文化を子どもたちに伝えられたらうれしい」とHさん。3日間のご指導だけでなく、事前に周到な準備をいただき、本当にありがとうございました。

これでみんなのお家にも正月神様が来てくれるね。

はみ出たワラをきれいに処理して



最後に南天、松、稲穂を飾ります

